

I 奈良県森林・林業・木材産業の現況

1. 森林の位置

本県の森林は、日本一の多雨地帯である紀伊半島のほぼ中央に位置し、近畿の主要河川の重要な水源地帯となっている。流域単位では北部の大和川・淀川水系、中部の紀の川水系、南部の新宮川・北山川水系に分かれる。

2. 森林資源の内容

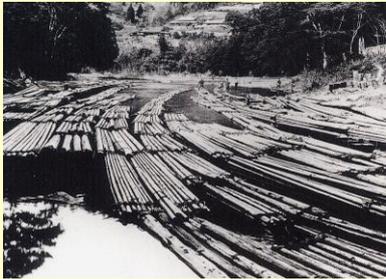
森林面積は284千ha、林野率は県土面積369千haの77%で、うち民有林が270千haと95%を占める。

3. 民有林森林資源の全国平均との対比

1ha当たりの森林蓄積量は285m³で全国第13位、人工林率は62%で全国第6位、林業産出額は29億円と全国第35位となっている。

4. 吉野林業

吉野川上流地域(川上村、東吉野村、黒滝村)は「吉野林業地域」と呼ばれ、集約的施業によるわが国有数の優良材生産地である。



東吉野村小 (明治～大正)

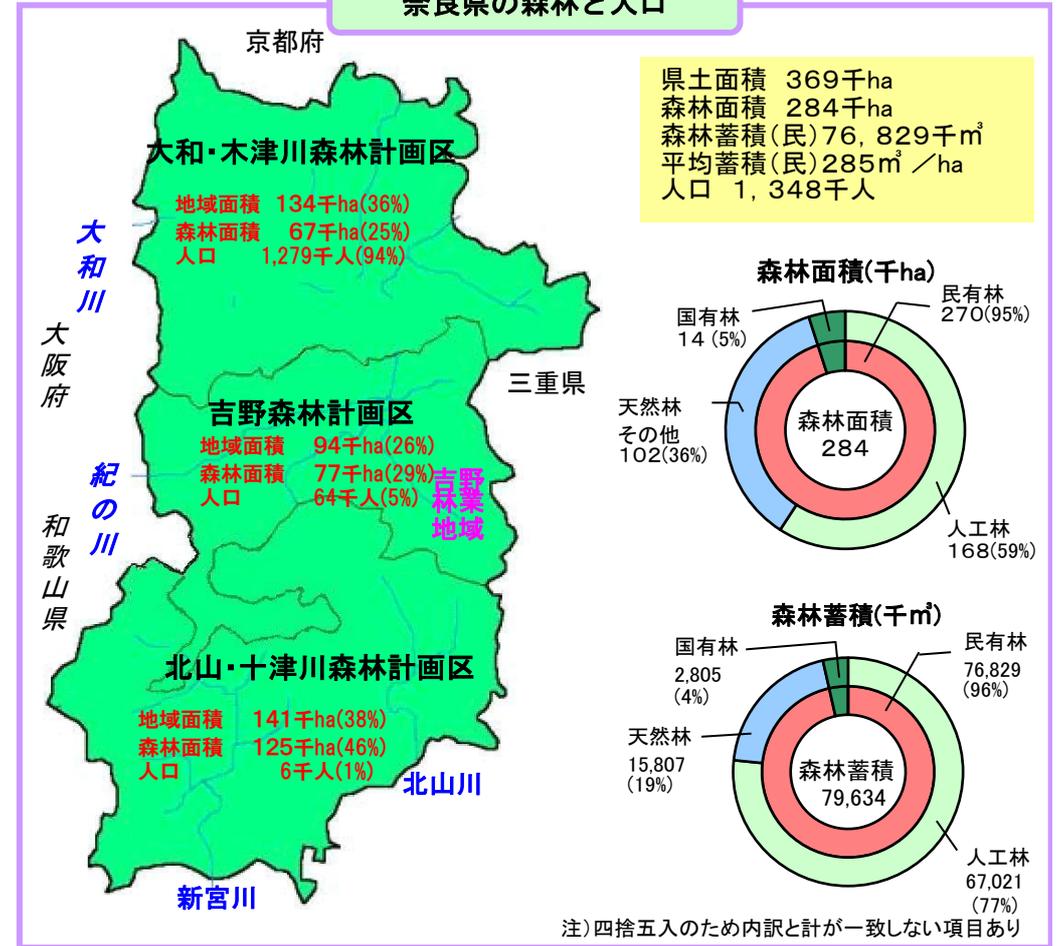


川上村白川渡

吉野林業の特徴

- ・日本最古の造林(1500年頃) 大阪城、伏見桃山城の普請材
- ・密植多間伐・長伐期の育林技術
- ・生産材は年輪幅が狭く均一 幹は通直・完満・真円

奈良県の森林と人口



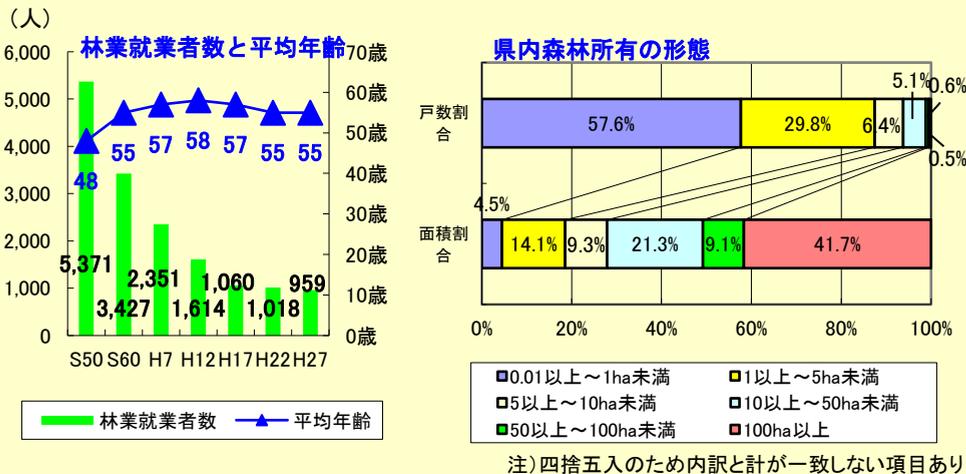
民有林森林資源等の内容

区分	奈良県	全国平均	順位
森林面積	270千ha	370千ha	28位
森林蓄積	76,829千m ³	85,438千m ³	23位
1ha当たり蓄積	285m ³	231m ³	13位
人工林面積	168千ha	168千ha	22位
人工林率	62%	45%	6位
林業産出額	29億円	96億円	35位
木材生産額	21億円	47億円	28位
特用林産物生産額	8億円	49億円	37位

(参考) ○奈良県:平成31年4月1日現在の数値 ○全国平均、順位:平成29年3月31日現在の数値
 (注)林業産出額は平成29年次の数値)

5. 林業就業者、山林所有規模

山村地域の過疎化や林業生産活動の低迷等により、林業就業者が減少するとともに、依然として平均年齢は高齢である。戸数割合では小規模経営(5ha未満)の林家が約9割を占めているが、面積割合では50ha以上の大面積経営林家が約5割を占めている。



6. 人工林(針葉樹)の林齢構成

戦後造林された林分が多く、除間伐等の保育を必要としている。特に3齢級～12齢級の要間伐林分は約70%を占めている。

(地域森林計画対象民有林)



7. 林業生産活動

木材価格の低下により生産コストに見合う収益が見込めないことから、素材生産・造林・保育などの林業生産活動が減退している。

林業生産活動の推移



8. 木材価格

木材価格は、スギの昭和55年、ヒノキの平成2年をピークに、以降は総じて下降傾向が続き低迷している。

*中丸太 径14～22cm
長さ3.65～4mのm3当たり価格



9. 木材産業

吉野町、桜井市を中心に製材、集成材工場等の二大木材団地を形成し、国産材を中心に優良材を供給している。木材産業は地域経済で重要な位置を占めているが近年入荷量が減少している。

